

山形 辰史 教授



開発途上国における貧困削減

「貧困削減」という言葉は、「持続可能な開発目標（SDGs：2015-2030）」に先行する「ミレニアム開発目標（2000-15）」の文脈では、「社会経済的生活水準や人権の発展」の対義語として使われています。私の研究では、このような意味での「貧困削減」を取り上げています。

輸出型製造業の雇用者数

日本、香港、台湾、韓国、タイ、フィリピンなどの東アジアの多くの国・経済は、20世紀に教育を受けていない人々を雇用し、労働集約型産業で産業化を進めました。中でも繊維産業は典型的な労働集約型産業です。その後、産業化は労働集約的な製造業から機械組立業、ハイテク・資本集約的な産業へと徐々に拡大していきました。このように、繊維産業は多くの国で産業化の入り口となったのです。当初は低かった賃金率も、経済の発展とともに徐々に上昇しています。

では、現在の低所得国では、このような産業化と貧困削減の戦略は通用するのでしょうか。私の研究によるとバングラディッシュとカンボジアはアパレル産業によって産業化と貧困削減が成功した例と言えます。アパレル産業は、低学歴の現地労働者（主に女性）を雇用しており、その賃金率は貧困削減のためには適度に高いと言えますが、産業内での競争力を維持するには十分ではありません。私は現在、（1）バングラデシュやカンボジアは産業化を深めることで中所得国になれるのか、（2）マダガスカル、エチオピア、ケニアなど、輸出志向のアパレル生産基盤を持つアフリカの一部の国でも同じ戦略が通用するのか、という2つの点に関して研究を進めています。



貧困削減に関するその他の課題：障害・健康・国際協力

私は以下のテーマについても研究を行っています。

- （1）途上国の障害者はどのように生活費を稼いでいるのか
- （2）誰がHIV/AIDSやCOVID-19などの感染症の薬やワクチンを進歩させ、流通させるのか
- （3）先進国や国際社会はどのように開発途上国を支援することができるのか




 学部

アジア太平洋学部

 アドレス

yama-apu@apu.ac.jp

 研究分野

開発経済学、国際協力、バングラデシュ経済、繊維産業、障害と開発、保健と感染症、応用経済学、地域研究